

# 2023年1月期第1四半期 決算補足資料

---

株式会社 シーイーシー

2022年6月10日

- 2023年1月期 第1四半期経営成績
- 2023年1月期 第2四半期及び通期業績見通し



# 2023年1月期 第1四半期經營成績

# 第1四半期実績前年比較

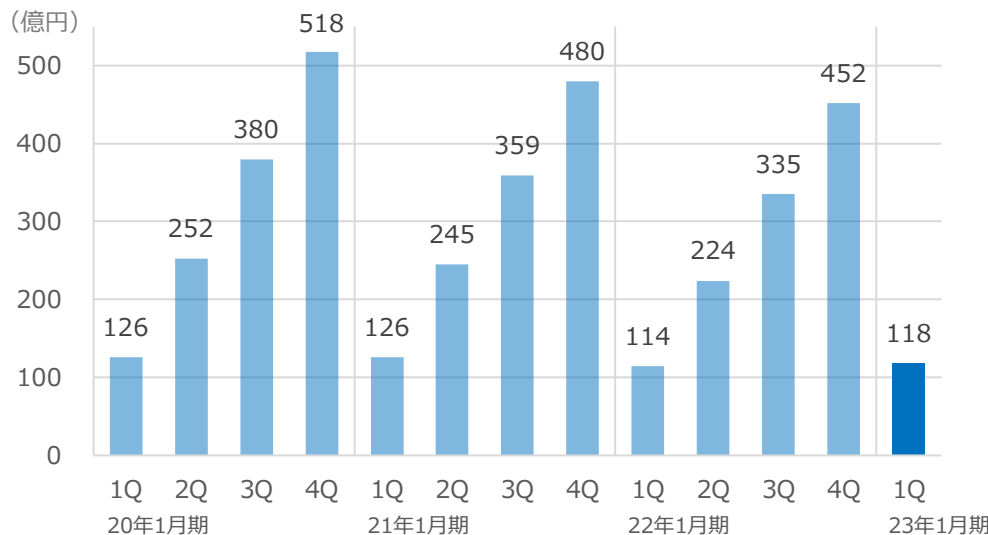
- 景気の回復に伴い事業環境は改善しているものの、不採算案件の影響拡大により減益 (単位：百万円)

	2021年1月期 第1四半期	2022年1月期 第1四半期	2023年1月期第1四半期		
				前年同期 比増減額	前年同期 比増減率
売上高	12,621	11,484	<b>11,801</b>	316	2.8%
営業利益	1,538	1,385	<b>900</b>	▲485	▲35.0%
営業利益率	12.2%	12.1%	<b>7.6%</b>	(▲4.5)	—
経常利益	1,550	1,393	<b>907</b>	▲486	▲34.9%
経常利益率	12.3%	12.1%	<b>7.7%</b>	(▲4.4)	—
四半期純利益*	1,068	954	<b>837</b>	▲116	▲12.3%
四半期純利益率	8.5%	8.3%	<b>7.1%</b>	(▲1.2)	—

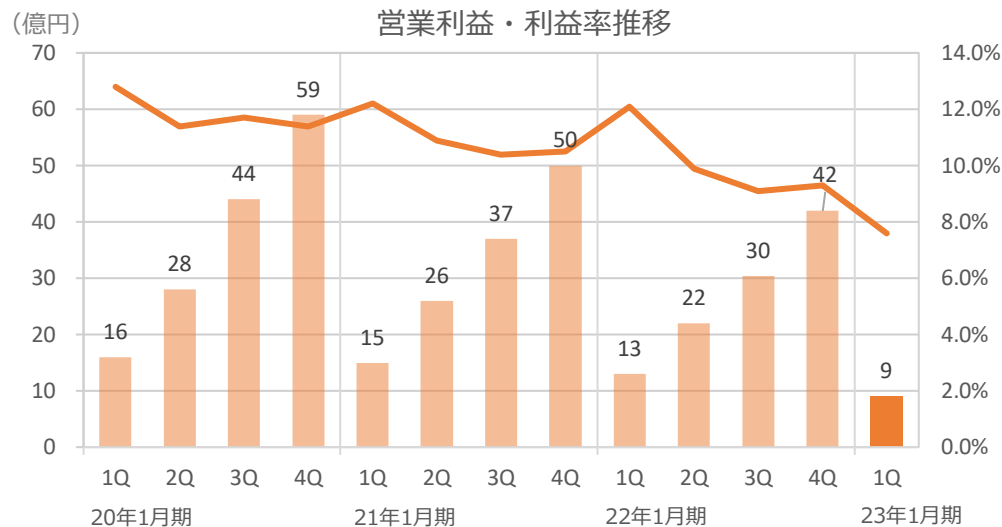
※「四半期純利益」は「親会社株主に帰属する四半期純利益」、「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す。以降同じ。

# 第1四半期業績概要

売上高推移



営業利益・利益率推移



## 売上高

- 製造業分野はICT投資が回復し前年比増収
- システム開発事業は不採算案件があるものの、DX需要旺盛で好調に推移
- インフラ構築事業は半導体不足の影響が継続
- セキュリティ分野は需要旺盛で好調に推移
- グループ会社は前年比微増
- 新収益認識基準の適用による影響は軽微

## 営業利益

- 前期発生の不採算案件が長期化、既存システム維持費用も増加し、減益幅が拡大
- 新収益認識基準の適用による影響は軽微

## 四半期純利益

- 営業利益の減少に伴う減益

# 事業セグメント別

- デジタルインダストリー事業は、ICT投資の回復により業績が改善し増収増益
- サービスインテグレーション事業は、半導体供給不足の影響は残るものの、DX推進や働き方改革推進関連需要は好調継続で増収、不採算案件の影響拡大等により大幅減益

(単位：百万円)

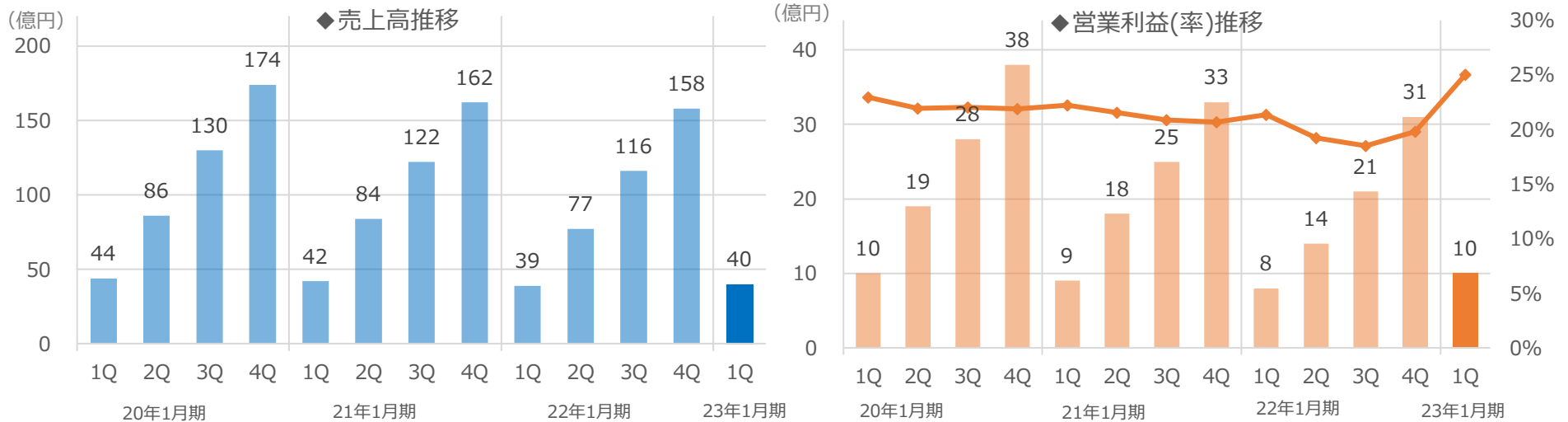
	2022年1月期 第1四半期実績		2023年1月期 第1四半期実績		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
デジタル インダストリー事業	3,995	852 21.3%	<b>4,096</b>	<b>1,035</b> <b>25.3%</b>	100 (2.5%)	183 (21.5%)
サービス インテグレーション事業	7,488	1,405 18.8%	<b>7,704</b>	<b>923</b> <b>12.0%</b>	215 (2.9%)	<b>▲481</b> <b>(▲34.3)</b>
全社費用	—	<b>▲872</b>	—	<b>▲1,058</b>	—	<b>▲186</b>
合計	11,484	1,385 12.1%	<b>11,801</b>	<b>900</b> <b>7.6%</b>	316 (2.8%)	<b>▲485</b> <b>(▲35.0%)</b>

※当第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」等を適用し、

- ・「デジタルインダストリー事業」の外部顧客への売上高は24百万円増加、セグメント利益は3百万円増加しております。
- ・「サービスインテグレーション事業」の外部顧客への売上高は30百万円減少、セグメント利益は14百万円減少しております。

# デジタルインダストリー事業第1四半期概要

## ■ 売上高・営業利益



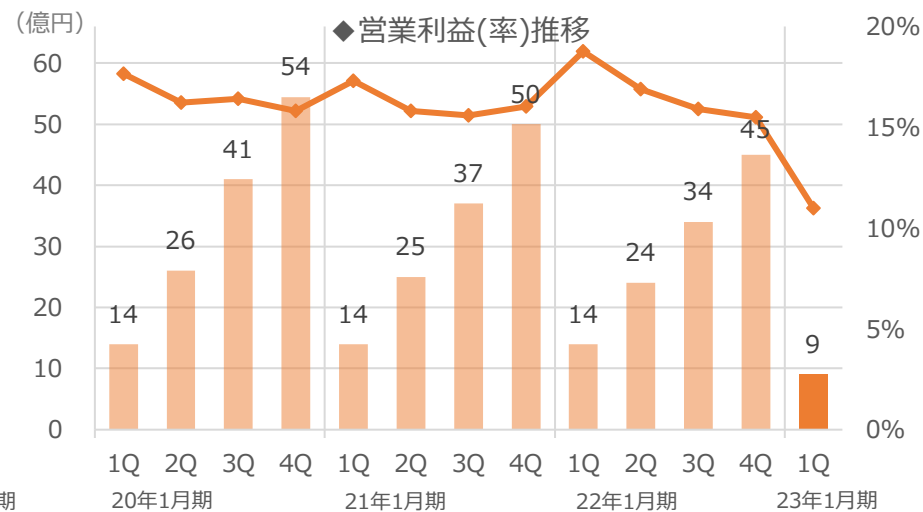
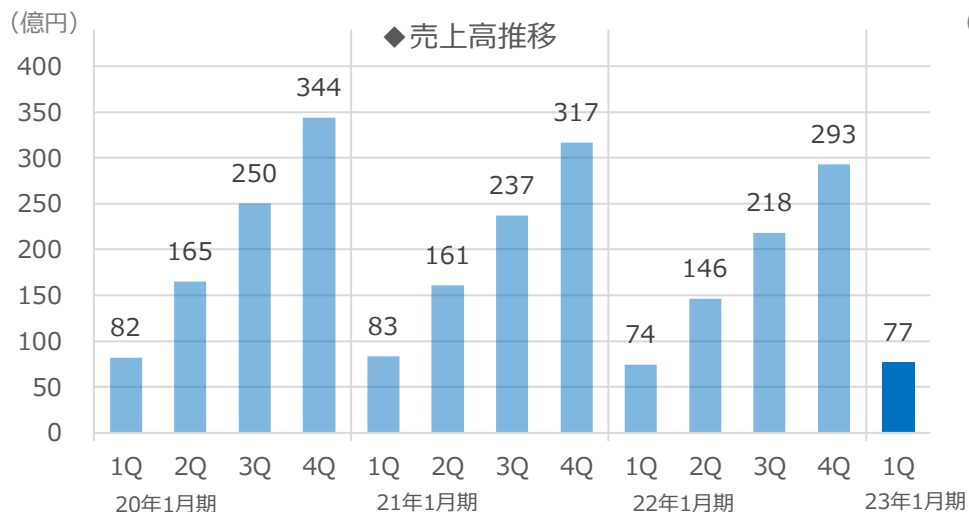
ポイント	
注力事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産・物流領域は商談増加も、半導体不足の影響により進捗は遅れ気味</li> <li>● モビリティ領域は大型商談延伸や開発案件の次期テーマ模索段階により進捗が遅れ気味</li> </ul>
主力事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主要顧客のICT投資は徐々に回復、引き合いも増加傾向</li> <li>● 西日本・中部地区の事業環境が回復、売上・利益の改善に貢献</li> <li>● 組織の再編に伴うシナジー効果も徐々に業績へ反映</li> </ul>

※注力事業：＜生産物流/モビリティ＞中長期で収益基盤へ育成するDX関連事業。当社独自のDXサービス・ソリューションを提供

主力事業：注力領域以外の当社収益基盤である受託系事業。コンサル、企画・設計、開発、構築、検証、運用、BPOなど

# サービスインテグレーション事業第1四半期概要

## ■ 売上高・営業利益



ポイント	
注力事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マイクロソフト連携領域はDynamics (ERP) の引き合い増加により好調</li> <li>● マイグレーション領域は前期から引き続き好調を維持</li> <li>● セキュリティ領域は官公庁・自治体の需要増加を中心に商談が活性化し好調</li> </ul>
主力事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>● システム構築事業は不採算の影響はあるものの、引き続き需要は旺盛</li> <li>● インフラ構築系は半導体不足の影響により伸び悩む</li> <li>● グループ会社は事業環境の改善に伴い、回復傾向で推移</li> </ul>

※注力事業：＜マイクロソフト連携/マイグレーション/セキュリティ/DXクラウド基盤＞中長期で収益基盤へ育成するDX関連事業。

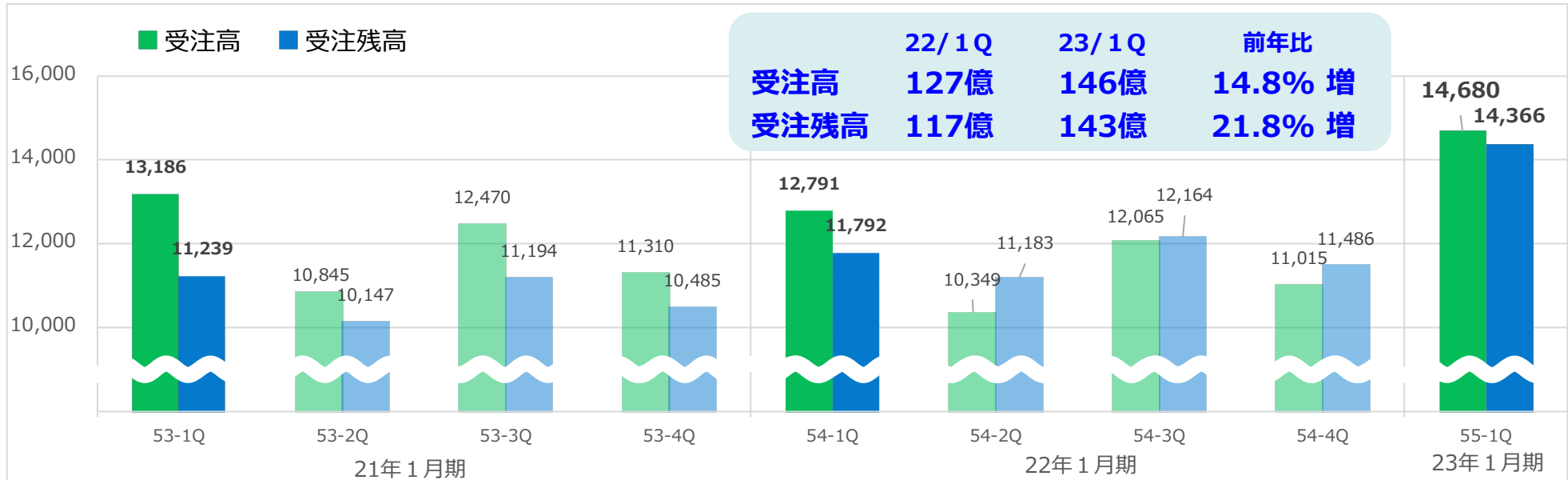
主力事業：注力領域以外の当社収益基盤である受託・インフラ系事業。コンサル、企画・設計、開発、構築、検証、運用、BPOなど



# 受注高・受注残高四半期推移

## ■ 受注高・受注残高ともに堅調に推移

(単位：百万円)



セグメント	項目	2021年1月期 第1四半期実績	2022年1月期 第1四半期実績	2023年1月期 第1四半期実績	前年比 (増減率)
デジタル インダストリー事業	受注高	4,538	4,167	<b>4,418</b>	+6.0%
	受注残高	3,129	2,892	<b>3,343</b>	+15.6%
サービス インテグレーション事業	受注高	8,648	8,623	<b>10,262</b>	+19.0%
	受注残高	8,110	8,899	<b>11,022</b>	+23.9%

# 貸借対照表比較

(単位：百万円)

	2022年 1月末	2022年 4月末	前連結会計年度比	
			増減額	増減率
流動資産	34,060	<b>34,607</b>	547	1.6%
現預金	22,430	<b>23,178</b>	747	3.3%
固定資産	11,087	<b>11,209</b>	121	1.1%
有形固定資産	6,567	<b>6,822</b>	255	3.9%
無形固定資産	244	<b>224</b>	▲19	▲8.1%
投資その他の資産	4,275	<b>4,162</b>	▲113	▲2.7%
流動負債	8,310	<b>9,799</b>	1,488	17.9%
受注損失引当金	391	<b>981</b>	589	150.4%
損失補償引当金	411	—	▲411	▲100.0%
固定負債	1,100	<b>636</b>	▲463	▲42.1%
負債合計	9,411	<b>10,436</b>	1,025	10.9%
自己株式	▲1,663	<b>▲2,032</b>	▲369	22.2%
純資産合計	35,736	<b>35,380</b>	▲356	▲1.0%
負債純資産合計	45,147	<b>45,816</b>	669	1.5%

ポイント
【流動資産】増加 現預金の増加
【固定資産】増加 設備投資により増加
【負債】増加 「損失補償引当金」は関連する顧客との契約における取引価格から減額することとなったことを受け「受注損失引当金」に含めて表示 納期遅延に伴い「受注損失引当金」を追加計上
【純資産】減少 自己株式取得に伴い純資産は減少 【自己資本比率】 78.7%→77.1%

## ■ これまでの経緯

- 前期 2 Qにて不採算案件が発生
- 3 Qにてシステムの納期延伸を申し入れ顧客と合意
- 4 Qにて更なるプロジェクト体制強化を実施

## ■ 今期 1 Qの状況

- テスト工程にて不具合確認、更なる品質強化対策が必要と判断し、2022年 9 月末納品から2023年 2 月末納品へ期間延伸

## ■ 今後の見通し

- 2 Qに入り不具合の原因と解決策を特定、現状はテスト工程の後半に入っており、2022年 7 月末に品質評価を実施予定

# 前期に発生した不採算案件の概要と影響額

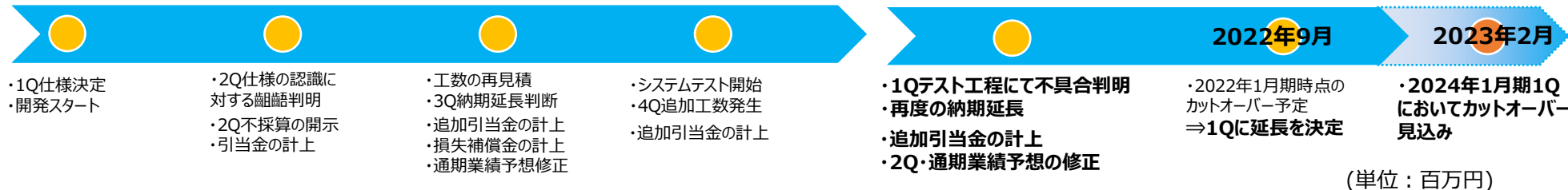
## ■ 不採算リスク対策

- 契約や体制、新規分野に関する技術・業務知識の習熟度に関する管理など、受注前商談のリスク対策を規約化し、全社のプロジェクト管理体制を強化
- プロジェクト品質向上を目的に、開発、営業、管理部門の連携強化により受注前・受注後・納品まで一貫した商談管理体制の更なる充実

### 【参考：不採算案件の経緯と影響額】

2022年1月期

2023年1月期



		2022年1月期			2023年1月期
		2Q累計	3Q累計	4Q累計	1Q累計
損益計算書影響額		△82	△831	△1,136	△496
内訳	営業利益への影響額	△82	△435	△722	△496
	特別損失計上額	—	△396	△414	—



# 2023年 1 月期 第 2 四半期及び通期業績見通し

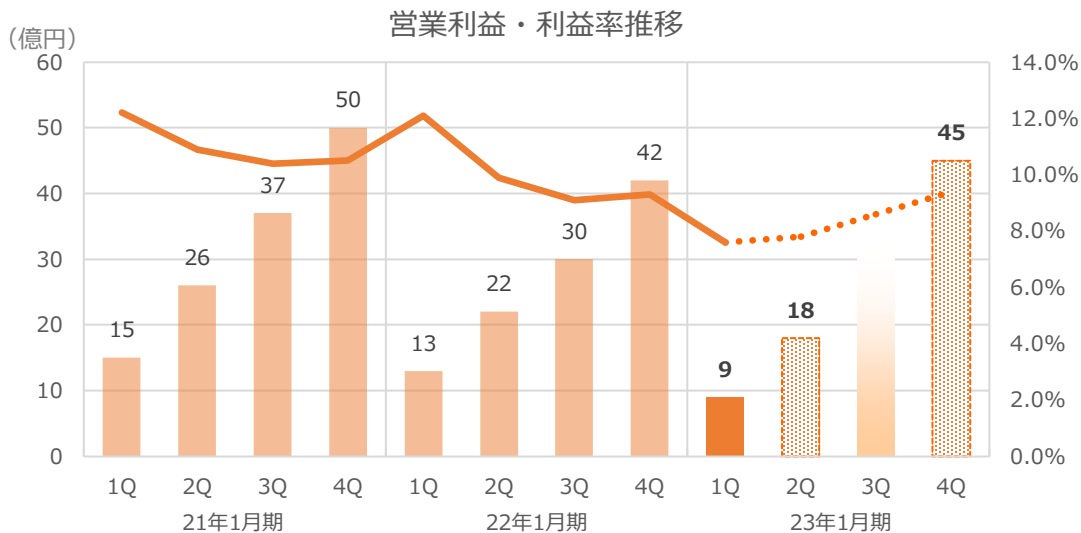
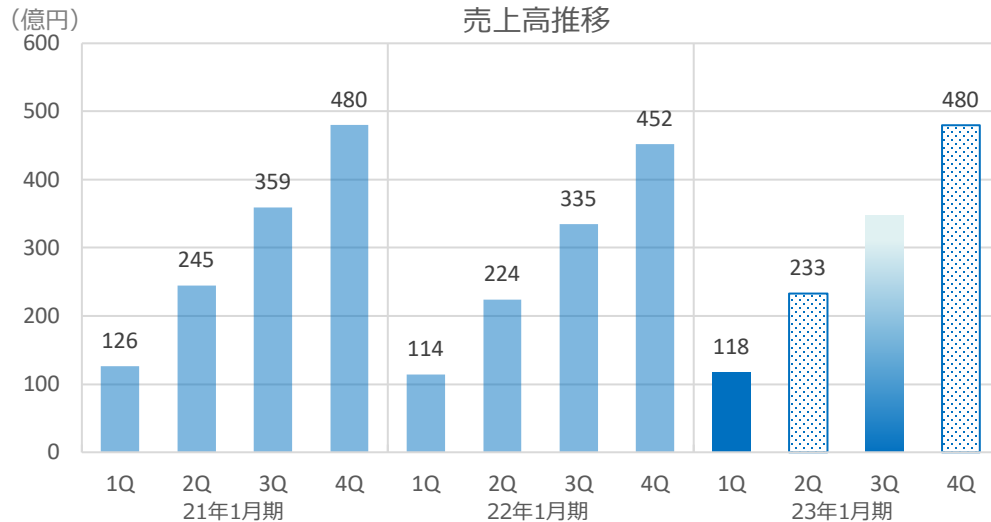
## 第2四半期及び通期業績予想の修正

- 売上高予想は据え置き、利益は上期影響分を下方修正

(単位：百万円)

	2023年1月期 期初予想		2023年1月期 修正予想			2023年1月期 修正予想		
	第2四半期	通期	第2四半期	増減額	増減率	通期	増減額	増減率
売上高	23,300	48,000	<b>23,300</b>	—	—	<b>48,000</b>	—	—
営業利益	2,300	5,000	<b>1,800</b>	▲500	▲21.7%	<b>4,500</b>	▲500	▲10.0%
営業利益率	9.9%	10.4%	<b>7.7%</b>	(▲2.2)	—	<b>9.4%</b>	(▲1.0)	—
経常利益	2,320	5,050	<b>1,810</b>	▲510	▲22.0%	<b>4,540</b>	▲510	▲10.1%
経常利益率	10.0%	10.5%	<b>7.8%</b>	(▲2.2)	—	<b>9.5%</b>	(▲1.0)	—
当期純利益 (四半期純利益)	1,550	3,400	<b>1,450</b>	▲100	▲6.5%	<b>3,300</b>	▲100	▲2.9%
当期純利益率 (四半期純利益率)	6.7%	7.1%	<b>6.2%</b>	(▲0.5)	—	<b>6.9%</b>	(▲0.2)	—

# 通期業績予想とポイント



## 売上高

- 業績予想に変更なし
- 主要顧客のICT投資は改善傾向、急回復とはならないものの、商談や引き合いは増加
- 営業戦略に変更なし、顧客の重点投資分野向けに製品サービスメニューの拡充と、営業活動シフト
- 事業領域の融合やエリアの統合により生まれるシナジー効果を存分に活かして、新規商談を開拓

## 営業利益

- 上期予想を下方修正、下期計画に変更なし
- 不採算案件の状況改善・早期収束を最重要課題として、経営資源を重点的に投下し、更なる影響拡大を防ぐ
- 付加価値の高いマイクロソフト連携サービスやマイグレーションサービスの好調を維持し、更なる新規商談の開拓を推進

# 事業セグメント別通期業績予想

(単位：百万円)

	2023年1月期 期初通期予想		2023年1月期 修正通期予想		増減額		2023年1月期 第1四半期進捗率	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)	売上高 進捗率	営業利益 進捗率
デジタル インダストリー事業	17,100	3,600 21.1%	<b>17,100</b>	<b>3,600</b> <b>21.1%</b>	— (—%)	— (—%)	4,096 24.0%	1,035 28.8%
サービス インテグレーション事業	30,900	5,100 16.5%	<b>30,900</b>	<b>4,600</b> <b>14.9%</b>	— (—%)	<b>▲500</b> <b>(▲9.8%)</b>	7,704 24.9%	923 20.1%
全社費用	—	<b>▲3,700</b>	—	<b>▲3,700</b>	—	—	—	<b>▲1,058</b> 28.6%
合計	48,000	5,000 10.4%	<b>48,000</b>	<b>4,500</b> <b>9.4%</b>	—	<b>▲500</b> <b>(▲10.0%)</b>	11,801 24.6%	900 20.0%





# Shape your future

[お問合せ先]	株式会社シーイーシー
経営企画部 IR担当	03-5789-2442
経理部 IR担当	046-252-4111
E-mail	<a href="mailto:IR@cec-ltd.co.jp">IR@cec-ltd.co.jp</a>

- 本資料は、投資を勧誘することを目的として作成されたものではありません。
- また、本資料に記載しております将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、変動する可能性があることをご承知おきください。

# 会社概要

<b>名称</b>	株式会社シーイーシー Computer Engineering & Consulting Ltd.	<b>従業員数</b>	2,273名（2022年4月1日現在）
<b>設立年月日</b>	1968年2月24日	<b>連結子会社</b>	8社
<b>上場取引所</b>	2022年4月（プライム市場） 2001年7月（東証一部）	<b>本社事務所</b>	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5 JR恵比寿ビル
<b>資本金</b>	65億86百万円	<b>代表者</b>	代表取締役社長 大石 仁史
<b>売上高</b>	452億20百万円（2022年1月期）		
<b>JQA認定</b>	品質マネジメントシステム 情報セキュリティマネジメントシステム クラウドサービス情報セキュリティマネジメントシステム ITサービスマネジメントシステム 環境マネジメントシステム	ISO9001:2015 ISO/IEC27001 ISO/IEC27017 ISO/IEC20000 ISO14001:2015	登録証番号JQA-1481 登録証番号JQA-IM007 登録証番号JQA-IC0040 登録証番号JQA-IT0005 登録証番号JQA-EM7701
<b>その他</b>	プライバシーマーク認定事業者		11820032(12)

## 事業内容

### ■ デジタルインダストリー事業

製造業のお客様を対象に、業務の効率化や品質の向上、魅力ある製品づくりを支援するICTサービスを提供

### ■ サービスインテグレーション事業

企業・組織の業務改革・改善に必要な、ICTライフサイクルのフルサポートから、クラウド、セキュリティまで一貫したサービスを提供

## サステナブルな社会実現に貢献する2つの事業

